



救急電話番号簿

名称 TEL

住所

名称 TEL

住所

名称 TEL

住所

医療機関名

Blank space for medical institution name.

ジャパンワクチン株式会社



第一三共株式会社

VAC1P00112-MQ
作成年月2012年10月

予防接種ってなあに？



予防接種便利帳

監修：国立病院機構三重病院名誉院長 神谷 齊
川崎医科大学小児科学教授 中野 貴司

お子さんのお名前

Blank space for the child's name.

予防接種 って… なに？

青文字…生ワクチン

ピンク文字…不活化ワクチン

※P5の「ワクチンとは？」を参照ください。



●もくじ●

予防接種とは？	4
ワクチンとは？	5
予防接種を受ける前に	6
予防接種を受けた後に	7
1 任意接種 B型肝炎	8
2 任意接種 ロタウイルス	10
3 任意接種 Hib(インフルエンザ菌b型)	12
4 任意接種 肺炎球菌(7価結合型)	14
5 定期接種 DPT-IPV(ジフテリア・百日せき・破傷風・ポリオ)	16
6 定期接種 DPT(3種混合)	18
7 定期接種 ポリオ	19
8 定期接種 BCG	20
9 定期接種 麻しん・風しん混合ワクチン(MRワクチン)	22
10 定期接種 麻しん	24
11 定期接種 風しん	25
12 任意接種 水痘	26
13 任意接種 おたふくかぜ	28
14 定期接種 日本脳炎	30
15 任意接種 インフルエンザ	32
16 任意接種 HPV(ヒトパピローマウイルス)	34
予防接種スケジュール表	38



予防接種には、定期接種と任意接種があります。

- 定期接種には、BCG、ポリオ、DPT・DT、MR・麻しん・風しん、日本脳炎があり国や自治体により決められた期間に無料(公費)で接種を受けることができます。
- 任意接種には、インフルエンザ、Hib、水痘(みずぼうそう)、おたふくかぜ、ロタウイルスなどがあり希望者が費用を自己負担して接種を受けます。自費ですが必要性がないということではなく、かかると重症になる可能性があるため、かかりつけ医と相談してなるべく接種しましょう。また、ワクチンの種類によっては各自治体により任意接種でも公費負担の場合もありますので地域の市区町村にお問い合わせください。

予防接種とは？

私たちは、日常生活の中では、さまざまな細菌やウイルスが生存しているため、それぞれに対する抵抗力がないと病気（感染症）にかかってしまいます。

予防接種とはワクチン（P5参照）を接種して、免疫（病気に対する抵抗力、抗体ともいう）をつくることにより、発病を予防したり、症状を軽くしたりする方法です。

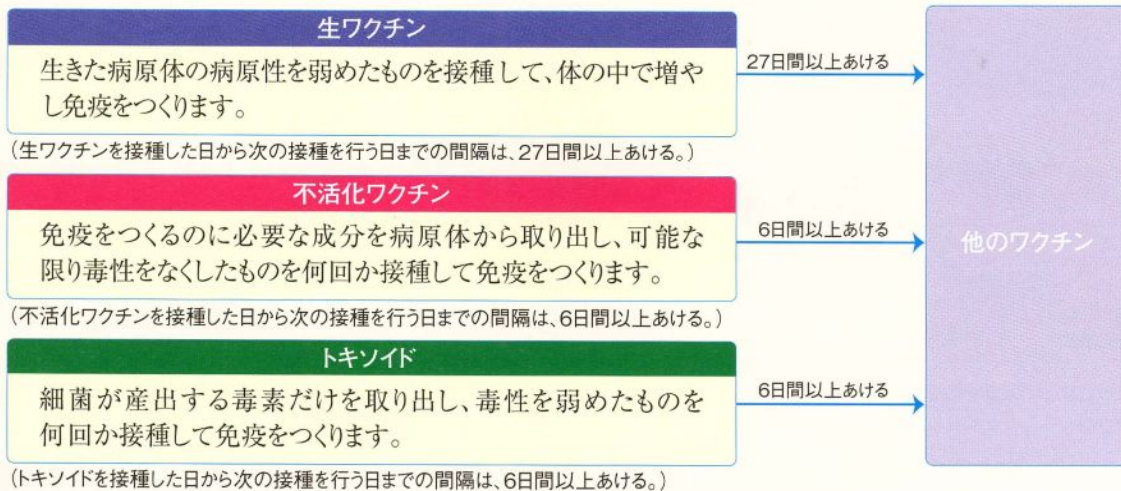
お母さんが臍帯を通じて赤ちゃんにプレゼントした病気に対する抵抗力（「移行抗体」と呼ばれています）は、生後数カ月の間に自然と失われていくため、赤ちゃん自身で免疫をつくる必要が生じてきます。また、お子さんが大きくなるにつれ、外出の機会も多くなります。保育園や幼稚園に入る前に予防接種で抵抗力をつくり、感染症を予防しましょう。

お子さんの健やかな成長のために、予防接種について正しい知識を持ち、安全に受けられるよう、この手帳をお役立てください。



ワクチンとは？

予防接種に使用する薬液を「ワクチン」といいます。ワクチンには、感染症の原因となる病原体を、病気を起こさない程度に性質を変えたり、毒素を弱めるなど、そのつくられ方から3つの種類があります。



予防接種を受ける前に

注意したいこと

① 接種の前日は入浴させ、身体を清潔にしましょう。



② 接種当日は、朝からお子さんの状態をよく観察し、普段と変わったところがないか確認しましょう。体調に変化がある場合は、かかりつけの医師にくわしく伝えましょう。

③ 清潔な衣服を着せ、お子さんの状態をよく知っている保護者が同行しましょう。

④ 予診票はお子さんを診察して接種する医師への大切な情報です。正確に記入して持参しましょう。



⑤ 母子手帳には予防接種の大切な記録を記入します。忘れずに持参しましょう。



医師との相談が必要な場合

① カゼのひきはじめなど。



② 今までに薬によるアレルギー症状が出たことがある人。



③ 今までに薬によって身体に異常をきたしたことがある人。

④ 他の予防接種を受けたとき、異常がみられた人。

⑤ ワクチンには主成分の抗原のほか、ウイルスを培養した卵の成分、抗生物質、添加物などが入り、これらにアレルギーがある人もいますので、アレルギー体質の人は事前によく相談しましょう。

⑥ 本人はそれらの病気にかかっていないが、最近、周りの人が麻しん(はしか)、風しん(三日はしか)、おたふくかぜ、水痘(みずぼうそう)などにかかっているとき。



⑧ 未熟児など、発育が悪い人。

⑨ 今までにけいれんを起こしたことがある人。

⑩ 中耳炎や肺炎によくかかる人。

予防接種を受けられない場合

① 37.5度以上の発熱があるとき。



② 急性の病気にかかっているとき。



③ 医師が診察し、不適当と判断したとき。



予防接種を受けた後に

注意したいこと

① 接種後30分間は、接種を受けた場所でお子さんの様子を見ましょう。急な副反応はこの間に起こる場合があります。副反応については、各ページを参考にしてください。



② 接種当日は、はげしい運動等は避けましょう。



③ 接種部位は清潔に保ちましょう。入浴はさしつかえありませんが、接種部位を特にこすことはやめましょう。



任意接種

1 不活化ワクチン

B型肝炎



B型肝炎ってどんな病気?

- 1 お母さんがキャリア(血液中に大量の感染ウイルスを持っている人)の場合は、高率に新生児に感染します。
- 2 B型肝炎抗原陽性の血液の輸血や陽性の人との性行為などで高頻度に感染するウイルス性疾患です。感染すると慢性肝炎にかかり、肝硬変、肝臓がんへと進行する人もあります。
- 3 その他にも様々な感染の機会があります。血液や体液との接触や途上国などでの消毒不十分な医療器具による感染も起こり得ますから、すべての人が子どものうちからワクチンを接種して予防を心がけておくことは大切です。海外では、すべての乳児



に本ワクチンの接種(universal vaccination)を行っている国も多いです。

接種を受ける時期と間隔は?

●対象者①

母子感染防止の対象者、B型肝炎抗原陽性の母親から生まれたお子さん(必須)。

●回数

生後48時間以内にHBIG(B型肝炎免疫グロブリン)を注射。生後2カ月目にHBIGとHBワクチン(B型肝炎ワクチン)を注射。生後3カ月目、生後5カ月目にそれぞれHBワクチンを注射。

●対象者②

キャリアからの感染の危険性が高い人、長期海外生活をする人(外国では日本よりキャリアの人が多いため)。

●回数

3回の注射(1回目から1カ月後に2回目、その後5~6カ月後に3回目)

B型肝炎ワクチンの副反応は?

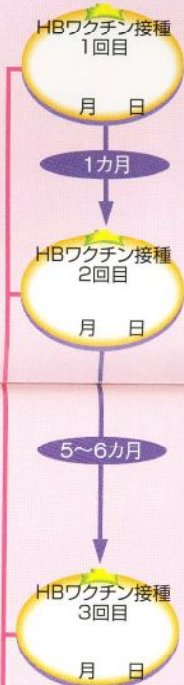
- 問題となるような副反応の頻度はきわめて低いです。



●対象者①の接種日



●対象者②の接種日



他の接種とは1週間(6日間)以上あける

ロタウイルス



ロタウイルスってなあに？

ロタウイルスは乳幼児に多く起こる感染性胃腸炎の原因となるウイルスの1つです。ロタウイルスには多くの種類(型)があり、5歳頃までに少なくとも1回以上は感染を経験するといわれており、特に重症化しやすいのは生後6カ月から2歳までの乳幼児です。

毎年冬から初春にかけてロタウイルスによる感染性胃腸炎の流行がみられ、感染すると2～4日の潜伏期間を経て発症します。嘔吐、水のような下痢を繰り返すのが特徴的な症状で、発熱を伴うことも多くみられます。通常これらの症状は1週間程度で治りますが、重症になると、嘔吐と下痢により体の水分が失われ、脱水症状が続いたり、けいれん、まれに急性脳炎・脳症などの合併症が起ることがあります。

感染経路は主に、便の中に出てきたロタウイルスが手などを通じて口に入ることによる糞口感染といわれています。強い感染力を持ち、わずかなウイルスで感染し、体外の環境にも強いので、ロタウイルスに汚染された水や食べ物を口にしたり、おもちゃをしゃぶったりするだけでも感染します。

そのため、日本では総患者数が年間約80万人に及び、患者の15人に1人が入院していると推定されています。

ロタウイルス胃腸炎になると、原因となるウイルスに対する薬剤がないため、対症療法(症状をやわらげる)しかありません。何度か感染することで免疫がつきますが、ワクチン接種により免疫をつけることで、ロタウイルス胃腸炎を予防することができます。

WHO(世界保健機関)はロタウイルスワクチンの乳児への定期接種を勧告しています。



接種を受ける時期と間隔は？

ロタウイルスワクチンは経口接種するワクチンです。(2種類あります。どちらか一種類を接種します。)

●対象者年齢・回数

[2回接種ワクチン]

生後6週から開始し、4週間以上の間隔をおいて、24週までに2回接種します。

[3回接種ワクチン]

生後6週から開始し、4週間以上の間隔をおいて、32週までに3回接種します。

※なおロタウイルスワクチンは、どちらのワクチンも初回接種を生後14週6日までに行うことが推奨されています。

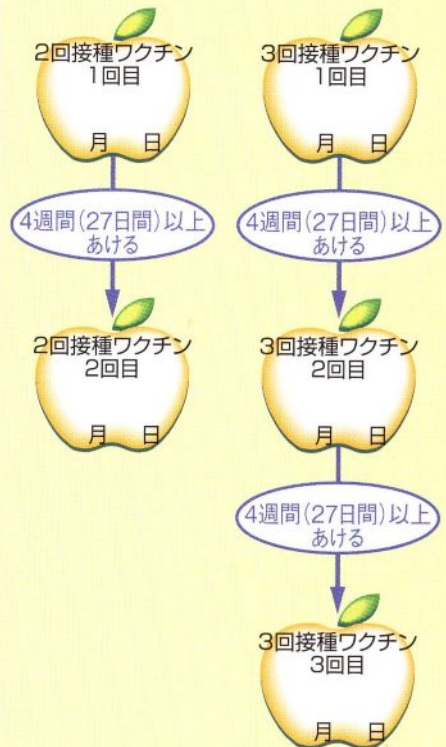


ロタウイルスワクチンの副反応は？

●世界中で接種や調査が行われ、安全性の高いワクチンです。かつてのワクチンで問題となった腸重積については、市販後も調査が継続されます。
※決められた期間内に接種を完了しましょう。

●いらいらする、怒りっぽいなど周囲の刺激に対して反応しやすくなる(ぐずりなどの易刺激性)、下痢、咳や鼻汁が出るなどの副反応が報告されています。

●接種日メモ



任意接種

3 不活化ワクチン

Hib

(インフルエンザ菌b型)



Hib(インフルエンザ菌b型)って、なあに?

インフルエンザ菌は子供の細菌性髄膜炎や敗血症を起こす菌のうちが一番頻度が高いものです。インフルエンザ菌は菌の外側にある莢膜の抗原性によってa~fまで6つの血清型がありますが、日常、感染症を起こすのはb型菌と、莢膜のない菌です。b型菌は小児の細菌性髄膜炎、喉頭蓋炎、菌血症といった侵襲性感染症を起こします。この菌は通常生活をしている範囲のどこにでも存在しますし、菌を鼻腔やのどに保菌している人もいますため、咳やくしゃみなどによる飛沫によっても感染します。通常5歳までには感染し抵抗力ができますので、5歳未満の乳幼児の感染がほとんどです。

日本では毎年約600名の乳幼児が発病します。感染の初期は風邪と同じ症状で、診断が難しく、侵襲性感染症を発病してから診断されることが多く、特に髄膜炎の発症は、5歳未満の小児人口10万人あたり8.6~8.9人と報告されています。感染者の約30%が予後不良と推計されています。最近では治療に使う抗生物質に対する耐性菌が増えており、ますますワクチンで早く免疫をつけておく必要性がでてきています。

欧米ではワクチン導入後、Hib感染症は劇的に減少しており米国全体でも6~7名の発症になっています。WHO(世界保健機関)は1998年3月に乳幼児への定期接種を勧告しており、世界120カ国以上で導入されています。

●①標準的な接種日 ●②の場合の接種日



接種を受ける時期と間隔は?

Hibに対する免疫力は母親の移行免疫抗体で生後2カ月頃までは守られています。それ以降免疫力は消失します。Hib感染症は、ほとんどが生後

3カ月~4歳までに発症しますので、生後2カ月以後からのHibワクチンの接種が効果的です。

●対象者年齢:生後2~60カ月未満

① 標準的な接種方法

[初回接種]

●接種開始年齢

生後2~7カ月未満

●回数

4~8週間間隔で3回の皮下注射

※ただし医師が必要と認めた場合3週間の間隔で接種できる

[追加接種]

通常、初回接種終了後おおむね1年後に1回の追加接種をします。

(注)

日本小児科学会では、初回接種を早めに行い、追加接種は1歳を過ぎたら接種することを推奨しています。



現在、「子宮頸がん等ワクチン接種緊急促進事業」の一環として、市区町村が実施主体となり公費助成が行われています。

詳しくはかかりつけ医やお住まいの市区町村にご相談ください。

② ①の期間に接種できなかった場合年齢的に免疫ができやすくなりますので以下の様な接種方法もあります。かかりつけ医とよくご相談ください。

●接種開始年齢

生後7~12カ月未満

[初回接種]

4~8週間間隔で2回の皮下注射

[追加接種]

通常、初回接種終了後おおむね1年の間隔において1回追加接種

●接種開始年齢

1~5歳未満

1回の皮下注射

Hibワクチンの副反応は?

●ごくまれに腫れや発熱、発疹、じんましん、かゆみなどがみられることがあります

すが、これらは、通常一時的なもので数日以内に消失します。

任意接種

4 不活化ワクチン

肺炎球菌 (7価結合型)



肺炎球菌ってなあに？

肺炎球菌は、インフルエンザ菌とならんで子どもの細菌性髄膜炎や菌血症といった侵襲性感染症の原因菌として知られています。その他にも、肺炎や気管支炎、中耳炎などを起こします。インフルエンザ菌に比べて頻度は低いですが、同様に病原性が強く、細菌性髄膜炎を発症するとてんかんや精神発達遅延などの後遺症を残したり、死に至ったりする場合があります。初期の段階ではかぜと区別がつきにくく、生後3カ月～5歳ぐらいでは重症化することもあります。

7価肺炎球菌結合型ワクチンは、従来から成人に使用されているワクチンとは異なり、子どもが重い病気を起こす原因となる肺炎球菌のうち、7つの血

清型で起こる重症感染症の約70%以上を予防することができます。日本においては2010年2月より導入されました。米国ではこのワクチンが導入されてから、肺炎球菌が原因とされる2歳未満の化膿性髄膜炎や敗血症が69%も減少しました。現在、世界98カ国で使用され、うち45カ国では定期接種として導入されています。

現在、「子宮頸がん等ワクチン接種緊急促進事業」の一環として、市区町村が実施主体となり公費助成が行われています。

詳しくはかかりつけ医やお住まいの市区町村にご相談ください。

接種を受ける時期と間隔は？

Hibワクチンと同じように生後2カ月から接種できます。早めに接種しましょう。

●対象者年齢:生後2カ月～9歳以下

① 標準的な接種方法

[初回接種]

●接種開始年齢

生後2～7カ月未満

●回数

27日間以上の間隔で3回の皮下注射
※3回目接種については生後12カ月になる前までに完了する。

[追加接種]

標準として生後12～15カ月の間に行う。(ただし、3回目接種から60日間以上の間隔をおく。)

② ①の期間に接種できなかった場合

●接種開始年齢

生後7～12カ月未満

[初回接種]

27日間以上の間隔で2回の皮下注射 [追加接種]

2回目の接種後60日間以上の間隔で、生後12カ月を越えてから1回の皮下注射

●接種開始年齢

1～2歳未満

60日間以上の間隔をあけて2回の皮下注射

●接種開始年齢

2～9歳以下

1回の皮下注射

肺炎球菌ワクチンの副反応は？

●海外からの報告も含め、接種部位が赤く腫れる(10～20%)、発熱(15

～24%)等がありますが、重篤例の報告はまれです。

●①標準的な接種日

肺炎球菌ワクチン(7価)接種 1回目

月 日

27日間以上

肺炎球菌ワクチン(7価)接種 2回目

月 日

27日間以上

肺炎球菌ワクチン(7価)接種 3回目

月 日

60日間以上

肺炎球菌ワクチン(7価)接種 4回目

月 日

●②の場合の接種日

(生後7～12カ月未満)

肺炎球菌ワクチン(7価)接種 1回目

月 日

27日間以上

肺炎球菌ワクチン(7価)接種 2回目

月 日

60日間以上

肺炎球菌ワクチン(7価)接種 3回目

月 日

(1～2歳未満)

肺炎球菌ワクチン(7価)接種 1回目

月 日

60日間以上

肺炎球菌ワクチン(7価)接種 2回目

月 日

(2～9歳以下)

肺炎球菌ワクチン(7価)接種 1回

月 日

DPT-IPV

(ジフテリア・百日せき・破傷風・ポリオ)

2012年11月導入



DPT-IPV(4種混合)ワクチンはどんな病気を予防するの？

●ジフテリア(Diphtheria)

ジフテリア菌の飛沫感染で起こります。感染すると、高熱、のどの痛み、犬が吠えるような咳、激しい嘔吐などが起こります。咽頭部の腫脹によって窒息死することもあります。また、発病から2～3週間後には菌の出す毒素により心筋炎や神経麻痺を起こすことがあります。しかし、感染しても10%程度の人にしかこれらの症状が現れず、残りの人は症状がない不顕性感染のため、保菌者である自覚がないまま、菌だけをまき散らすこともあります。

●百日せき(Pertussis)

百日せき菌の飛沫感染で起こります。普通のカゼのような症状で始まり、咳がひどくなり、連続的にせき込むようになります。咳の後、急に息を吸い込むので、笛を吹くような音(レブリーゼ)が出るのが特徴で、高熱は出ません。乳幼児の場合は、咳で呼吸困難になることが多く、チアノーゼ(血中の酸素が欠乏

して皮膚が青黒くなる症状)や、けいれんが起こることがあります。また、肺炎や脳炎などの重い症状を併発することがあります。

この病気は成人でもかかることがあります。子どもと症状が違い、咳が主症状で1～2カ月続きます。咳だけでも菌をまき散らし、子どもにうつすことがありますので、長期(2週間以上)に咳がとまらない時には、医師の検査を受けましょう。

●破傷風(Tetanus)

土の中に潜んでいる破傷風菌が傷口から感染して起こります。

自分でも気づかない程度の軽い傷が感染の原因になることもあります。菌の出す毒素により、手足のしびれやけいれん、口が開かないなどの症状が起こり、その後の処置が遅れると生命にかかわります。破傷風菌は日本中どこにでもあります。予防接種で免疫をつくっておけば安心です。

●ポリオ

「小児マヒ」と呼ばれる病気です。ポリオウイルスは人から人へ感染します。感染した人の便中に排泄されたウイルスが口から入り、腸に感染します。感染したウイルスは3～35日間(平均7～14日間)腸の中で増えますが、ほとんどは症状が出ない不顕性感染で終わり、一生、免疫が得られます。症状が出る場合は、ウイルスが血液を仲介して脳・脊髄へと感染し、麻痺を起こすことがあります。

100人中5人程度はカゼに似た症状を呈し、発熱に続いて頭痛、嘔吐が現れます。一部の人は永久に麻痺が残ります。麻痺の発生率は感染した人の200～1,000人に1人の割合です。呼吸筋の麻痺で呼吸困難になり死亡する例もあります。

一部の国では野生株のポリオの流行が残っており、日本へ侵入してくる可能性があります。感染予防のためワクチンで免疫をつくっておく必要があります。

接種を受ける時期と間隔は？

[1期…初回接種] (DPT-IPV)

●対象者年齢

生後3～90カ月まで
(標準接種年齢:3～12カ月未満)

●回数

3～8週間の間隔で3回の皮下注射

[1期…追加接種] (DPT-IPV)

●対象者年齢

初回接種終了後6カ月以上
(標準:初回接種終了後12カ月以上18カ月未満)

●回数

1回の皮下注射

[2期] (DT)

●対象者年齢

11、12歳
(標準接種年齢:11歳)

●回数

1回の皮下注射
※DT(2種混合)ワクチンを用いる

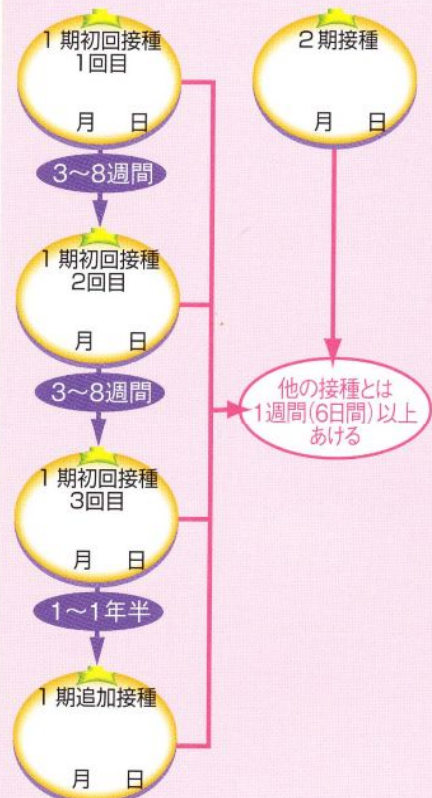
DPT-IPV(4種混合ワクチン)の副反応は？

●注射部位が赤くなる、腫れる、しこりができる。また全身では、発熱、下痢などがあります。

●機嫌が悪くなったり、腫れが目立つときなどは、かかりつけの医師にご相談ください。

●不活化ポリオワクチンなのでワクチン関連麻痺(VAPP)の心配はありません。

●接種日メモ



定期接種

6 不活化ワクチン

DPT

(3種混合)



接種を受ける時期と間隔は？

[1期…初回接種] (DPT)

●対象者年齢

生後3～90カ月未満
(標準接種年齢:3～12カ月未満)

●回数

3～8週間間隔で3回の皮下注射

[1期…追加接種] (DPT)

●対象者年齢

初回接種終了後6カ月以上
(標準:初回接種終了後12カ月以上18カ月未満)

●回数

1回の皮下注射

[2期] (DT)

●対象者年齢

11、12歳
(標準接種年齢:11歳)

●回数

1回の皮下注射
※DT(2種混合)ワクチンを用いる

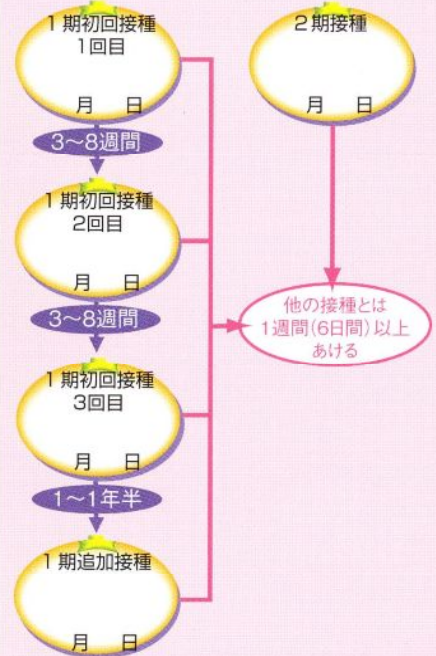
1期の接種については、すでにワクチンに含まれるいずれかの病気にかかった方でもDPTワクチンの接種を受けることができます。くわしくは、かかりつけの医師にご相談ください。

DPTワクチンの副反応は？

●注射部位が赤くなる、腫れる、しこりができることがあります。免疫がつくられたために起こる現象です。しこりは通常放置しておけば次第に小さくなります。

●過敏なお子さんの場合、上腕全体が腫れることがあります。湿布などで軽快します。
●機嫌が悪くなったり、腫れが目立つときなどは、かかりつけの医師にご相談ください。

●接種日メモ



定期接種

7 不活化ワクチン

ポリオ

2012年9月より従来の生ポリオワクチン(OPV)に代わり、不活化ポリオワクチン(IPV)が導入されました。

接種を受ける時期と間隔は？

●対象者年齢・回数

生後3カ月から初回接種を開始し、3週間以上の間隔をおいて3回以上接種する。
※4回接種(追加免疫)については現在データを集積中です。

ポリオワクチンの副反応は？

●発熱、眠気、機嫌が悪くなる、接種部位の腫れ、痛みや赤くなるなどの副反応が報告されています。

●不活化ポリオワクチンなのでワクチン関連麻痺(VAPP)の心配はありません。



●接種日メモ



BCG



BCGで予防できる結核ってどんな病気？

結核は結核菌によって起こる慢性伝染病で、一般に肺に起こる肺結核が知られています。日本では現在でも毎年3万人以上の結核患者が発生しています。また、乳幼児が結核に感染すると、粟粒結核や結核性髄膜炎などになり、

重い後遺症を残すことがあります。乳幼児期早期に牛型結核菌を弱めたワクチン(BCG)を接種しておく、肺結核は50%、結核性髄膜炎は80%が予防できるというデータが出ています。



接種を受ける時期と間隔は？

●対象者年齢

生後6カ月未満
(接種側の計画ができないとき、本人に特別な事情があるときは1歳未満)
(標準接種年齢:3~6カ月未満)

●回数

1回

接種の方法は、管針法(スタンプ式)といって管に細い針がついたものを上腕の2カ所に強く押しつけて接種します。接種したところは、日陰で自然乾燥させてください。10分程度で乾きます。

BCGの副反応は？

●2~4週後に接種部位が赤くなったり、うみが出たりするのは異常反応ではなく、免疫が正しくついた証拠です。包帯やバンソウコウはせずに、清潔に保ってください。

【注意】ただし、1カ月以上続くときには、かかりつけの医師の診察を受けましょう。

●副反応として、まれに接種をした側のわきの下のリンパ節が腫れることがあります。通常放置して様子を見てかまいません。

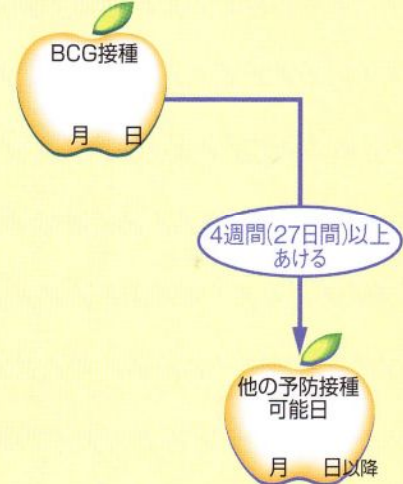
【注意】赤くなったり痛みがあるときは、かかりつけの医師に相談しましょう。

◎ツベルクリン反応検査をしなくなったための注意

接種後3日目から10日目頃までに接種部位に明らかな発赤・腫脹、針痕部位の化膿などがみられた場合(コッホ現象という)には、赤ちゃんが結核に感染している可能性が高いので、すぐかかりつけの医師に相談しましょう。



●接種日メモ



麻しん・風しん混合ワクチン (MRワクチン)



麻しん・風しんの予防には混合ワクチン(MRワクチン)を1歳時(1期)と小学校就学前1年間(2期)に1度ずつ接種します。

通常はMRワクチンを接種しますが、麻しんワクチン、風しんワクチンをそれぞれ別々に1期と2期の2回接種を受ける

こともできます。くわしくは、かかりつけの医師にご相談ください。

麻しん(はしか)ってどんな病気?

麻しん(はしか)に感染した人の、咳やくしゃみなどで麻しんウイルスが飛び散り、飛沫感染します。

伝染力が極めて強いウイルスで、発熱、咳、鼻汁、目やに、発疹を引き起こします。約10～12日の潜伏期間のあと、38度前後の熱が出て、一時的におさまりますが、再び39～40度の高熱と発疹が出てきます。3～4日高熱が続いたのち下がり、発疹も次第に消えていきます。

主な合併症は、気管支炎、肺炎(100人中1～6人程度)、中耳炎(100人中7～9人程度)、脳炎(約1,000人に1人)、重急性硬化性全脳炎という遅発性の脳炎(約10万人に1人)などがあります。

また、麻しん患者の1,000人に1人程度の割合で亡くなるともいわれています。予防接種をすれば、合併症はほとんど起こりません。ぜひ予防接種を受けましょう。

風しん(三日はしか)ってどんな病気?

風しん(三日はしか)は感染者の、咳やくしゃみなどで飛沫感染します。

感染してから症状が出るまでの潜伏期間は2～3週間あり、軽いカゼの症状から始まり、発熱、発疹、首のリンパ腺が腫れるといった症状が出ます。発疹も熱も2～3日で治ることから「三日はしか」とも呼ばれています。

年少児のうちは心配するほどではありませんが、年長児や大人の場合は重症にな

ることが多く、2～3日では治りにくくなります。

妊婦が妊娠初期にかかると、先天性風疹症候群といって多発奇形の赤ちゃんが生まれることがありますので、妊娠前に免疫をつけておく必要があります。

接種を受ける時期と間隔は? (注)

[1期] 麻しん・風しん混合ワクチン

●対象者年齢

生後12～24カ月未満

●回数

1回の皮下注射

[2期] 麻しん・風しん混合ワクチン

●対象者年齢

5歳～7歳未満で小学校就学前1年間(就学前年度4/1～3/31)

●回数

1回の皮下注射

麻しん・風しん混合ワクチンの副反応は?

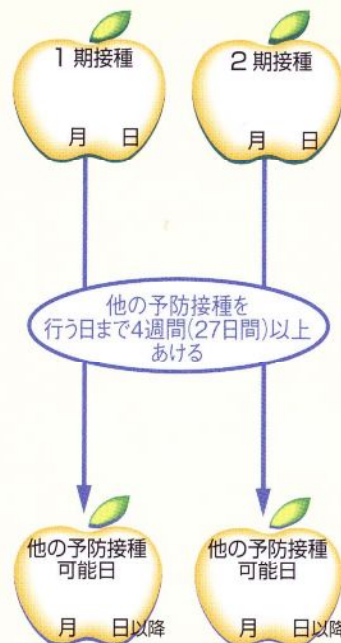
●このワクチンは麻しんと風しんのワクチンを混ぜたものです。接種してから1週間後に37.5度以上の発熱、発疹などがみられることがありますが、通常1～2日で消失します。

●2つのワクチンを混ぜたことで、今までの別々のワクチン接種時以上に増えることはありません。

(注)

麻しん・風しんワクチンを過去に1回しか接種していない人を対象に、2012年の麻しん排除に向けて2008年4月1日から5年間の期限付きで、現在の1期・2期に加え3期(中学1年生相当の年齢)、4期(高校3年生相当の年齢)が追加になっています。1期に麻しん・風しんワクチンを別々に接種した人も、2期にはMRワクチンが接種を受けることができます。麻しん・風しんのどちらかにかかった人も、定期接種できます。単独ワクチンの場合には、それぞれのページを参照してください。

●接種日メモ



接種の詳細については、お住まいの市区町村に、お問い合わせください。

麻しん



接種を受ける時期と間隔は？^(注)

通常、麻しん・風しん混合ワクチン(MR混合ワクチン)を1期と2期で2回接種しますが、麻しんワクチン単体でも1期と2期の2回接種を受けることができます。すでに風しんにかかってしまったり、風しんワクチンを接種した方でも、MRワクチンか、麻しんワクチンの接種を受けることができます。

[1期]

●対象者年齢
生後12～24カ月未満

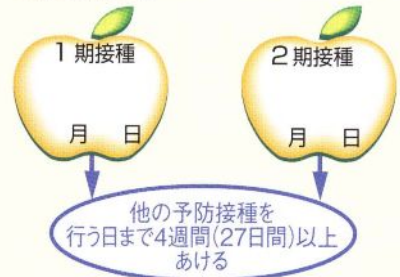
●回数
1回の皮下注射

[2期]

●対象者年齢
5歳～7歳未満で小学校就学前1年間(就学前年度4/1～3/31)

●回数
1回の皮下注射

●接種日メモ



麻しんワクチンの副反応は？

- 接種当日から2～5%の人に発熱や発疹がみられることがあります。また、7日目くらいから、約20%の人に発熱、発疹といった軽いはしかに似た症状が出ますが、これは麻しんウイルスの性質のためで、通常1～2日で治ります。
- まれに熱を伴ったけいれんが起きます。
- 100万人に1人程度の確率で脳炎が発生することがあります。

(注)

2012年の麻しん排除に向けて2008年4月1日から5年間の期限付きで、現在の1期・2期に加え3期(中学1年生相当の年齢)、4期(高校3年生相当の年齢)が追加になっています。

接種の詳細については、お住まいの市区町村に、お問い合わせください。

風しん

接種を受ける時期と間隔は？^(注)

通常、麻しん・風しん混合ワクチン(MR混合ワクチン)を1期と2期で2回接種しますが、風しんワクチン単体でも1期と2期の2回接種を受けることができます。すでに麻しんにかかってしまったり、麻しんワクチンを接種した方でも、MRワクチンか、風しんワクチンの接種を受けることができます。

[1期]

●対象者年齢
生後12～24カ月未満

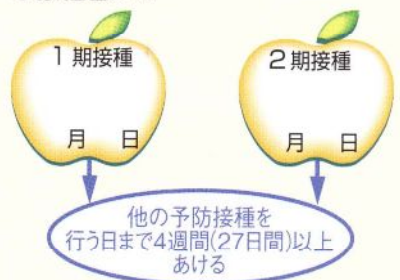
●回数
1回の皮下注射

[2期]

●対象者年齢
5歳～7歳未満で小学校就学前1年間(就学前年度4/1～3/31)

●回数
1回の皮下注射

●接種日メモ



風しんワクチンの副反応は？

- 約4%の人に軽い発熱、発疹、リンパ節の腫れなどの症状が出ることがあります。
- 接種後1～2週間は咽頭からワクチンウイルスが認められることがありますが、周囲にはうつらないといわれています。
- 接種を受けた成人女性の100人中6人程度に、一過性の関節痛がみられます。

(注)

2008年4月1日から5年間の期限付きで、現在の1期・2期に加え3期(中学1年生相当の年齢)、4期(高校3年生相当の年齢)が追加になっています。

接種の詳細については、お住まいの市区町村に、お問い合わせください。

水痘



水痘 (みずぼうそう) ってどんな病気?

水痘・带状疱疹ウイルスの感染で起こります。初感染では、発熱とともに全身に水疱性の発疹が出ます。水痘ウイルスは回復後も長く体内に持続感染する性質があり、なにかのきっかけで体の免疫機能が低下すると再活性化し、带状疱疹となって現れます。

水痘は普通に子どもがかかったとき、合併症はまれですが、経過は軽い人から重い人(重症の発疹や脳炎等の合併症)まであります。白血病や悪性腫瘍、大量のステロイドホルモンを使用しているお子さんなどは免疫機能が低下しているため、症状が重くなります。



接種を受ける時期と間隔は? (注)

●対象者年齢

1歳を過ぎたら接種できます。低年齢児で流行するので、保育所や幼稚園等の集団生活に入る前の早いうちに接種するのがよいでしょう。

●回数

1回の皮下注射

(注)

日本小児科学会では、2回接種を推奨しています(1回目:1歳過ぎたら早期に、2回目:3か月以上あけて2歳未満)。詳しくは、かかりつけ医にご相談ください。

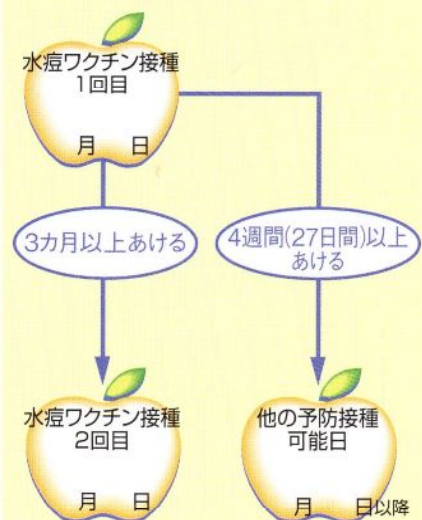
水痘ワクチンの副反応は?

●発熱、発疹がみられることがあります。一過性で通常数日中に消失します。また、まれに接種部位の発赤、腫れなどがみられることがあります。

●白血病などのお子さんでは、軽い発疹や発熱がみられることがあります。また、接種には一定の条件があります。

●接種を受けても約20%は後に水痘にかかることがあります。その症状は軽症で水疱も目立たず、あとも残りません。接種しても約1~2%には、他のワクチン同様免疫ができない場合も考えられます。その場合は普通の水痘にかかります。

●接種日メモ



おたふくかぜ



おたふくかぜ（流行性耳下腺炎・ムンプス）ってどんな病気？

おたふくかぜの主な症状は、耳の下、頬の後ろ側、あごの下など耳下腺部または顎下腺部の腫れです。両側が腫れることが多いですが、片方だけのこともあります。合併症としてまれに髄膜炎や難聴を起こすことがあります。思春期および成人男子がかかると睾丸炎を起こすこともあります。

おたふくかぜの約3分の1は、症状の出ない不顕性感染といわれています。



接種を受ける時期と間隔は？（注）

●対象者年齢

1歳を過ぎたら、年齢と関係なく接種を受けることができます。かかりやすい年齢は4～5歳ですが、保育園、幼稚園等の集団生活に入る前には接種をするのがよいでしょう。

●回数

1回の皮下注射

（注）

日本小児科学会では、2回接種を推奨しています（1回目：1歳過ぎたら早期に、2回目：小学校就学前（5～6歳））。詳しくは、かかりつけ医にご相談ください。

●接種日メモ

おたふくかぜワクチン
1回目

月 日

5歳以上で

4週間(27日間)以上
あける

おたふくかぜワクチン
2回目

月 日

他の予防接種
可能日

月 日以降

おたふくかぜワクチンの副反応は？

●接種2～3週間後に耳の下が軽く腫れることがあります。約2000人に1人は無菌性髄膜炎にかかることがありますが、自然感染した場合と比べればとても少ない頻度です。



日本脳炎



16

日本脳炎ってどんな病気?

日本脳炎は人から人へ直接感染するのではなく、感染した豚の体内で増えたウイルスを蚊が媒介して感染します。7～10日間の潜伏期間の後、高熱、嘔吐、頭痛、けいれん、意識障害などの症状を

示す急性脳炎になることがあります。症状の出る人はウイルスを持った蚊にさされた人1,000～5,000人に1人程度です。夏カゼに似た症状や無菌性髄膜炎で終わる人もいます。脳炎にかかったと

きの死亡率は約15%、神経に後遺症が残る人は約50%にもなる重病です。

接種を受ける時期と間隔は?

[1期初回]

●対象者年齢

生後6～90カ月未満
(標準接種年齢3歳)

【注意】3歳未満と3歳以上で注射の接種量が異なります

●回数

1～4週間間隔で2回の皮下注射

[1期追加]

●対象者年齢

初回接種後おおむね1年後
(標準接種年齢4歳)

●回数

1回の皮下注射

[2期]

●対象者年齢

9～13歳未満
(標準接種年齢9歳)

●回数

1回の皮下注射

日本脳炎ワクチンの副反応は?

●まれに接種直後から翌日に、発疹、じんましん、かゆみなどがみられることがあります。

●全身症状としては37.5度以上の発熱、咳、鼻水、悪寒(さむけ)、頭痛、倦怠感、吐き気など、局所症状としては接種部位に発赤、腫れ、痛みなどがみられることがあります。通常は2～3日で消えます。

●ごくまれに接種後数日～2週間程度で急性散在性脳脊髄炎(ADEM)などの重い副反応がみられる場合があります。

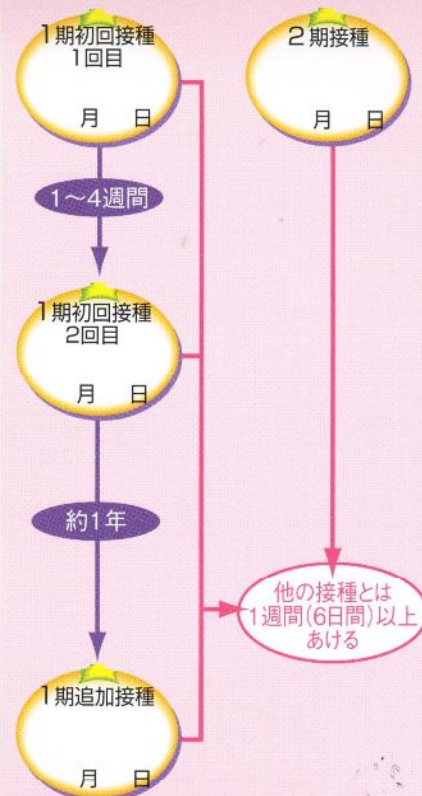


◎日本脳炎ワクチン接種について

2012年度は、通常の3歳・4歳のお子様に加えて、小学2年生・3年生・4年生のお子様にも、日本脳炎の予防接種のご案内を行っています。小学2年生・3年生・4年生のお様がいらっしゃる保護者の方は、母子健康手帳を確認し、日本脳炎の1期接種が不足している場合は接種を受けましょう。ご案内の対象となっていない場合でも、平成7年6月1日～平成19年4月1日生まれで、1期・2期の接種が終わっていないお子様は、20歳未満までの間、接種を受けることができます。

詳しくはかかりつけ医やお住まいの市区町村にご相談ください。

●接種日メモ



インフルエンザ



インフルエンザってどんな病気？

インフルエンザウイルスの感染により、高熱、鼻汁、咳、全身倦怠感などの症状が出ます。A/H1N1型、A/H3N2型、B型のウイルスは毎年少しずつ変異し、流行を引き起こします。

新型インフルエンザ(A/H1N1)は2011年4月1日から通常の季節性インフルエンザに変わりました。



接種を受ける時期と間隔は？

●対象者年齢

接種は生後6か月から可能ですが、お子さんに接種するかどうかは、かかりつけの医師とご相談ください。なお、呼吸器系、心臓血管系などの持病がある人や医療従事者等の方には特に接種をお勧めします。

●回数

13歳未満 2～4週間間隔で2回の皮下注射
13歳以上 1回または1～4週間間隔で2回の皮下注射

より強い免疫を得るためには4週間あけるといいでしょう。流行期前の10～12月に接種することが望ましいとされています。



インフルエンザワクチンの副反応は？

●接種部位が赤く腫れたり、発熱、頭痛などの副反応がみられることがあります。

●インフルエンザワクチンには卵の成分が少量含まれています。血液検査で陽性でも卵を食べて異常のない方は、多くの場合は接種を受けることが可能ですが、かかりつけの医師にもご相談ください。

●接種日メモ

インフルエンザワクチン
接種1回目

月 日

他の接種とは
1週間(6日間)以上
あける

13歳未満:2～4週間
13歳以上:1～4週間

他の予防接種
可能日

月 日以降

インフルエンザワクチン
接種2回目

月 日

他の接種とは
1週間(6日間)以上
あける

他の予防接種
可能日

月 日以降

(注)

65歳以上の高齢者、60～65歳未満の心臓・肺・腎障害を持つ人は定期接種の対象となります。

16 不活化ワクチン

HPV (ヒトパピローマウイルス)



18

HPV(ヒトパピローマウイルス)ってなあに?

HPV(ヒトパピローマウイルス)は女性の子宮頸がん発生の原因となるウイルスです。HPVは性交渉によって誰でも感染する機会のある一般的なウイルスで、8割くらいの女性が一生のうち一度は感染します。子宮頸がんを発症するのは感染した女性の1%未満だと考えられています。ワクチンに入っているHPV16型と18型は最も一般的な発がん性タイプであり、世界の子宮頸がんの約70%にこのタイプが関連しています。そして、20~30歳代での発症が問題となっており、日本では年間約15,000人が発症、約3,500人が亡くなっています。また、HPV6型と11型は尖圭コンジローマ(性器イボ)の発症原因の約90%を占めています。

「子宮頸がんを発症させるのはHPV感染である」と確定されたことによって、予防を目的としたワクチンの開発が進みました。HPVワクチンには2009年12月より導入されたHPV16型と18型の感染を予防する2価ワクチンと2011年8月より導入されたHPV6型と11型、16型、18型の感染を予防する4価ワクチンがあります。発症は20~30歳代が多いのですが、ワクチンは性交渉開始前に接種しておくことが大切です。接種対象年齢については日本産科婦人科学会、日本小児科学会、日本婦人科腫瘍学会で話し合い、初回接種は11~14歳に開始することを推奨としています。なお、世界においてはすでに100カ国以上で使用されています。



現在、「子宮頸がん等ワクチン接種緊急促進事業」の一環として、市区町村が実施主体となり公費助成が行われています。
詳しくはかかりつけ医やお住まいの市区町村にご相談ください。

接種を受ける時期と間隔は?

●対象者年齢

[2価ワクチン] 10歳以上の女性
[4価ワクチン] 9歳以上の女性

●回数

3回の筋肉内注射
[2価ワクチン] 初回接種の後、1カ月後と6カ月後にそれぞれ1回
[4価ワクチン] 初回接種の後、2カ月後と6カ月後にそれぞれ1回

HPV(ヒトパピローマウイルス)ワクチンの副反応は?

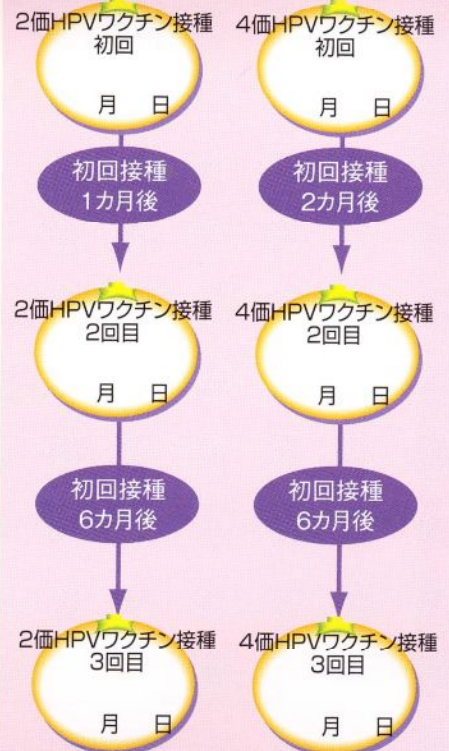
●注射部位の疼痛、発赤および腫脹などの局所反応と、軽度の発熱、倦怠感などの全身性の反応であり、いずれも一過性で数日以内に軽快します。

●海外での接種約7,800例において、局所反応としては疼痛(90.3%)、発赤(46.6%)、腫脹(43.0%)、全身反応としては疲労感(35.9%)、頭

痛(29.7%)、筋痛(35.0%)などが報告されています。



●接種日メモ



予防接種スケジュール表

接種日を忘れないように記入しておきましょう。



2012年10月現在

		出生時	2カ月	3カ月	4カ月	5カ月	6カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳	18歳	19歳			
		小学校																								中学校		高等学校	
不活化ワクチン	●定期接種 ●任意接種																												
	●B型肝炎	▼ HB免疫グロブリン ▼ HBワクチン 母子感染防止事業としてのスケジュール※1 任意接種によるスケジュール																											
生ワクチン	●ロタウイルス	年月日 年月日 2回接種ワクチン 年月日 年月日 年月日 3回接種ワクチン 初回接種は、生後14週6日までにすることが推奨されています。 ロタウイルスワクチンは2種類あります。どちらか1種類のワクチンを接種します。																											
	不活化ワクチン	●H i b (インフルエンザ菌b型)	年月日 年月日 年月日 年月日																										
●肺炎球菌 (7価結合型)		年月日 年月日 年月日 年月日																											
●DPT-IPV (ジフテリア・百日せき・破傷風・ポリオ)		年月日 年月日 年月日 年月日 第1期DPT-IPV 年月日 年月日 第2期DT (DPT-IPVもしくはDPT、IPV単独を接種します)																											
●D P T (ジフテリア・百日せき・破傷風)		年月日 年月日 年月日 年月日 第1期DPT 年月日 年月日 第2期DT																											
●IPV単独 (不活化ポリオ)		年月日 年月日 年月日 年月日																											
チ生ワク	※2 ●B C G	年月日 ※2																											

		出生時	2カ月	3カ月	4カ月	5カ月	6カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳	18歳	19歳
生ワクチン	※3 ●麻しん・風しん混合	年月日 4/2生まれ 8/1生まれ 12/1生まれ 第1期 第2期 第3期 第4期																								
	※3 ●麻しん	年月日																								
	※3 ●風しん	年月日																								
	※4 ●水痘	年月日 年月日																								
不活化ワクチン	※4 ●おたふくかぜ	年月日 年月日																								
	※5 ●日本脳炎	年月日 年月日 年月日 年月日																								
	●インフルエンザ	毎年2回(2~4週間隔) 毎年1回または2回(1~4週間隔)																								
	●HPV (ヒトパピローマウイルス)	2価HPVワクチン ▼ 10歳以上の女性に3回(0,1,6ヵ月後) 4価HPVワクチン ▼ 9歳以上の女性に3回(0,2,6ヵ月後)																								

※1:HBs抗原陽性の母親から生まれた児を対象として適用されます。一般的な感染予防スケジュールは4週間隔で2回、20~24週を経過した後に1回、合計3回接種です。
 ※2:接種側の計画ができないとき、病気等で医学的に接種時期の延長が正当に説明できるときは、1歳までは市町村で公費負担ができる地域がありますので市町村にお問い合わせください。
 ※3:1期は1歳児、2期は5歳から7歳未満で小学校就学前1年間(就学前年度4/1~3/31)で、麻しん・風しん混合ワクチンか、麻しんおよび風しんの各々のワクチンを2回接種します。(2008年4月から5年間の期間限定で、今までに1回しか接種していない人を対象に3期は中学校1年生に相当する1年間(4/1~3/31)、4期は、高校3年生に相当する1年間(4/1~3/31)に接種をします。)
 ※4:水痘、おたふくかぜのワクチンは、1歳を過ぎたら接種が可能です。日本小児科学会では、2回接種を推奨しています。
 ※5:4回すべて受けていない者は、第1回目の接種後6日から28日までの間隔をおいて第2回目を接種し、第3回目の接種は第2回目から概ね1年あけて接種します。第4回目の接種は9歳以上で接種することし、第3回目の接種からは6日以上の間隔をおいて接種します。これまでに1回でも受けたことがある者は、残りの接種(1~3回)を6日以上の間隔をおいて接種します。なお、第4回目の接種は9歳以上で接種します。
 ●上の表は法律で定められた予防接種の期間です。の期間中いつでもよいわけですが、それぞれの予防接種の目的から、お勧めの接種対象年齢を で目安として示してあります。
 ●各ワクチンの接種の順番は、地域の実状に合わせて主治医などに相談して決めましょう。
 ●複数種類のワクチンの同時接種もできます。主治医などに相談しましょう。